



SSVC搭載の先進的な脆弱性管理サービス

CSIRT / PSIRT

自動優先順位付け

PCI DSS v4.0対応

SBOM対応



Linux, Windows

Java等のライブラリ

Cisco等のNW機器

クラウド/オンプレ/閉域

## 「CVSS」で疲弊していませんか？

### 従来のCVSSベース脆弱性管理の限界

毎年なんと2万件以上の新たな脆弱性が公開されています。この膨大な情報の中から、どの脆弱性が自社にとって重要なのかを見分けるのは難しい課題です。CVSSスコアは一定の指針を提供しますが、「実際のリスク」を反映していません。例えば、「CVSSスコアが8.0以上の脆弱性は全て対応すべし」という運用方法では、対応が必要な脆弱性の数が多すぎ、実際の運用が回りません。

真のリスク評価には、「脆弱性」だけでなく「脅威」や「資産価値／業務影響」も考慮に入れる必要があります。

しかし、これらの要素を適切に評価するには専門的な知識と時間が必要で、これが現実的な運用を妨げる大きな障壁となります。

FutureVulsは「**米国政府推奨のSSVC**」を搭載。専門家なしにリスクを自動判断。CVSSの限界を打破！

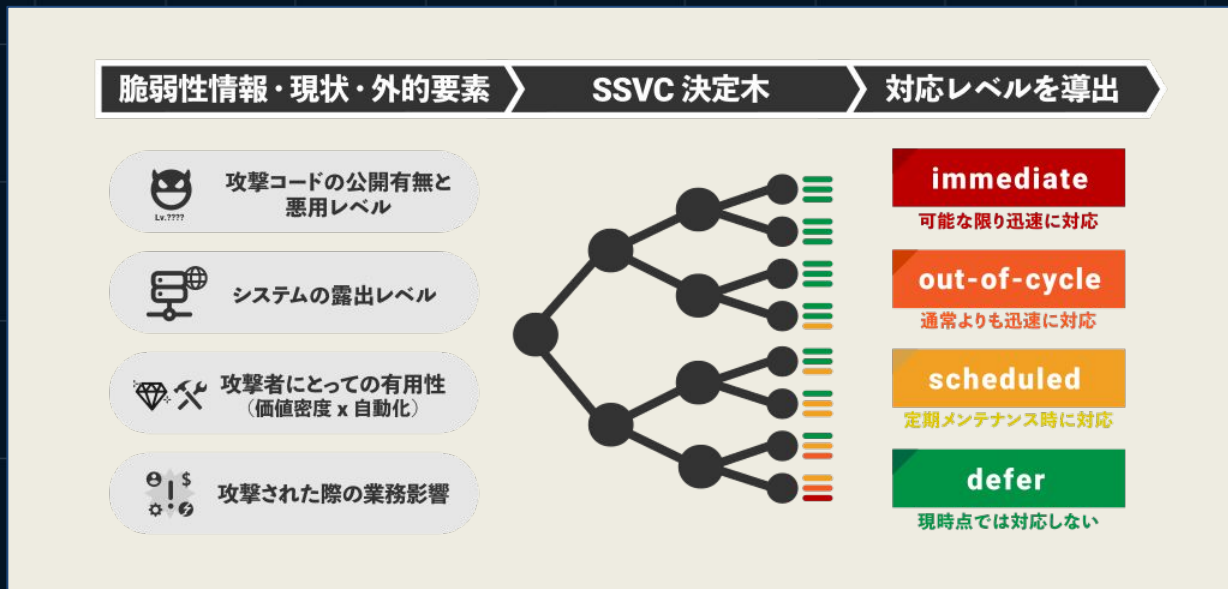
**SSVC**の詳細は裏面へ

様々な業界の企業様に導入頂いています



かがやく“笑顔”のために  
森永乳業株式会社

# SSVCは「実際のリスク」に基づき対応を自動決定

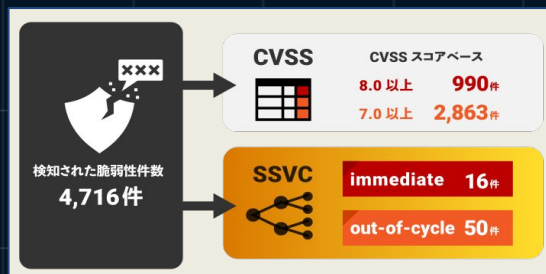


「悪用状況」「システム環境」「攻撃者にとっての有用性」「業務影響」をインプットに「決定木」を用いて、検知した脆弱性の対応を4段階に自動分類します。

## FutureVulsのSSVC機能の「3つ」のメリット

### ① CVSSの15倍も高い分類性能

Web公開されている基幹システムを対象にSSVCを使用したところ、全体の4,716件の脆弱性のうち緊急対応は「16件」、計画外対応は「50件」という結果になりました。これは、CVSSスコアを使用した場合よりも大幅に少ない数です。SSVCで対応が必要な脆弱性を絞り込めます。



### ② 判断根拠が明確

判断根拠は決定木で一目瞭然です。

優先度 Priority	通常よりも迅速に行動し、計画外の機会に緩和策または修復策を実施する	Out of cycle	Out of cycle
悪用レベル Exploitation	実際に悪用を確認した信頼できる情報がある	active	active
露出レベル Exposure	ローカルサービスや高度に制御されたネットワーク上のシステム	small	small
有用性 Utility	価値密度 重要情報が集中している	concentrated	concentrated
	攻撃の自動化 攻撃を自動化できない	no	no
業務影響 Human impact	業務続行不能で回復不能になる	very_high	very_high

### ③ 自動判断、対応指示も自動化

「Immediateに分類されたタスクの優先度を高に、対応期限を1週間後にセット」といった、ルールを事前に定義できます。

重要な未対応	その他未対応	対応中	保留中	対応済み	すべて		
Danger	CVE ID	深刻度	Red Hat	攻撃コード	警戒情報	バッチ提供	...
!	CVE-2024-40438	CRITICAL	9	⚔	⚠	○	
!	CVE-2024-15999	HIGH	8.6	⚔	⚠	○	

